

# JIS

## 銅及び銅合金中のりん定量方法

JIS H 1058 : 2013

(JCBA/JSA)

平成 25 年 1 月 21 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 非鉄金属技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	里 達 雄	東京工業大学
(委員)	石 田 徳 和	三菱マテリアル株式会社
	岩 本 佐 利	一般社団法人日本電機工業会
	上 本 道 久	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
	江 崎 正	一般社団法人電子情報技術産業協会 (ソニー株式会社)
	岡 崎 雅 之	公益社団法人自動車技術会 (株式会社本田技術研究所)
	緒 形 俊 夫	独立行政法人物質・材料研究機構
	鎌 土 重 晴	一般社団法人日本マグネシウム協会 (長岡技術科学大学)
	中 野 利 彦	株式会社神戸製鋼所
	根 上 和 彦	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	萩 原 益 夫	ISO/TC79/SC11 (チタニウム) 国際議長
	長谷川 隆 代	昭和電線ケーブルシステム株式会社
	藤 田 篤 史	日本冶金工業株式会社
	星 幸 弘	日本鋳業協会
	村 松 俊 樹	古河スカイ株式会社

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 62.11.1 改正：平成 25.1.21

官 報 公 示：平成 25.1.21

原 案 作 成 者：一般社団法人日本伸銅協会

(〒110-0005 東京都台東区上野 1-10-10 うさぎやビル TEL 03-3836-8801)

一般財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 稲葉 敦)

審議専門委員会：非鉄金属技術専門委員会 (委員長 里 達雄)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 一般事項	1
4 定量方法の区分	1
5 モリブドバナドリル酸吸光光度法	4
5.1 要旨	4
5.2 試薬	4
5.3 試料はかりとり量	5
5.4 操作	5
5.5 空試験	5
5.6 検量線の作成	5
5.7 計算	6
6 モリブドバナドリル酸抽出吸光光度法	6
6.1 要旨	6
6.2 試薬	6
6.3 試料はかりとり量	7
6.4 操作	7
6.5 空試験	9
6.6 検量線の作成	9
6.7 計算	9
7 モリブドリル酸抽出モリブドリル酸青吸光光度法 (A 法)	10
7.1 要旨	10
7.2 試薬	10
7.3 試料はかりとり量	11
7.4 操作	11
7.5 空試験	12
7.6 検量線の作成	12
7.7 計算	12
8 モリブドリル酸抽出モリブドリル酸青吸光光度法 (B 法)	13
8.1 要旨	13
8.2 試薬	13
8.3 試料はかりとり量	14
8.4 操作	14
8.5 空試験	14

	ページ
8.6 検量線の作成 .....	14
8.7 計算 .....	14
9 ICP 発光分光法 .....	15
9.1 要旨 .....	15
9.2 試薬 .....	15
9.3 試料はかりとり量 .....	15
9.4 操作 .....	16
9.5 空試験 .....	16
9.6 検量線の作成 .....	16
9.7 計算 .....	16
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表 .....	18
解 説 .....	21

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本伸銅協会（JCBA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS H 1058:2006** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

白 紙

# 銅及び銅合金中のりん定量方法

## Copper and copper alloys—Determination of phosphorus content

### 序文

この規格は、1984年に第1版として発行されたISO 4741を基とし、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、附属書JAに示す。

### 1 適用範囲

この規格は、銅及び銅合金（伸銅品、形銅、鋳物用銅地金及び銅鋳物）中のりんの定量方法について規定する。

**注記** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 4741:1984, Copper and copper alloys—Determination of phosphorus content—Molybdovanadate spectrometric method (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

### 2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS H 1012 銅及び銅合金の分析方法通則

JIS Z 8401 数値の丸め方

### 3 一般事項

分析方法に共通な一般事項は、JIS H 1012による。数値の丸め方は、JIS Z 8401の規則Aによる。

### 4 定量方法の区分

りんの定量方法は、次のいずれかによる。

なお、日本工業規格に規定する銅及び銅合金に関する種類の合金番号又は種類の記号、及びそれぞれの合金番号又は記号ごとの適用定量方法は、表1による。

- a) モリブドバナドリン酸吸光光度法** この方法は、りん含有率0.004%（質量分率）以上0.80%（質量分率）以下の試料に適用する。
- b) モリブドバナドリン酸抽出吸光光度法** この方法は、りん含有率0.01%（質量分率）以上0.50%（質